

## 大学生の感想



東京農業大学  
昆虫機能開発研究室  
3年 稲垣亮展さん

今回の子どもワークショップの担当をさせていただき、子どもたちはどんな町にしたいのだろうな、どんな発想をするのだろうなと想像しながら、自由な発想をうまく町づくりに活かせるような様々な企画を考えました。子どもたちがどんな未来の町を想像するか考えると、車が飛んでいたり、大きなビルが建ち並んでいる町並みを想像するのかなと思いました。しかし、矢吹の子どもたちは誰ひとりそんな町を想像せず、「今の町の景色が好き」「田園の町の風景を残して欲しい」「みんなが優しい矢吹町が好きだ」という意見ばかりで、都会で育ってきた自分たちには想像もつかないようなアイデアがとびだしました。子どもたちはこの今の矢吹町が大好きなんだと実感し、自分自身この町に興味湧き、矢吹に住んでいる子どもたちを羨ましくも感じました。



## 子ども達にインタビュー

### なぜ参加したの？

- ・都会に行ってみたかった！
- ・東農大の学生に会いたかったし、大学がどんなところか見てみたかった。
- ・チラシを見て楽しそうだったと思った。
- ・お母さんがすすめてくれた。

### 10年後どんな町になってほしい？

- ・デパートができてほしい。私たちが町長になって考えた町を実現して！！
- ・人口が増えたらいいな。
- ・優しい人がいっぱい町になってほしい。

### 長島先生が言っていたように町を自慢できるようになった？

- ・まだ自慢できないけれど、都会と田舎が両立しているような町になったら自慢できる。
- ・みんなで協力できる町になったらいいな。お店が元気な町になったら自慢する！
- ・1日目に都会を見て、田舎と比べなくなった。田舎にもいい所たくさんあるなって思ったから。
- ・矢吹もけっこういいところじゃん！って思った。

### 参加してみてどうだった？

- ・ラズベリーや試験管培養の実験を将来やりたいと思った。
- ・地元のきじそばや、東農大で食べた小学生への特別な弁当がとてもおいしかった！
- ・30年後を考えて行ったディベートはとても難しかった。
- ・まちづくりゲームは、町長の気持ちになって考えた。とても難しかったけれど、将来の矢吹町が私たちの考えたような町になったらいいな。

## まちづくり総合審議会の委員を公募します

町では、さわやかな田園のまち、創造するまちづくりの実現に向けて、様々なまちづくり計画に対する町長の諮問機関として、矢吹町まちづくり総合審議会を設置しています。

現在の審議委員の任期が満了するのに伴い、新たに委員を公募します。町の将来像を見据えた計画づくりにあなたの意見を活かしてみませんか？若い世代の方、大歓迎です。会議自体は年に数回、午後6時以降に開催する予定です、奮ってご応募ください。

### <募集要領>

- ・募集人員 5人程度（満20歳以上の町民で、まちづくりに対する理解と興味のある方）
- ・募集期間 平成26年10月20日まで（必着）
- ・申し込み 役場企画経営課に備えてある申込書もしくは、町ホームページから申請書をダウンロードして、必要事項を記入のうえご応募ください。

募集の結果並びに任命された委員の氏名等については広報やぶきに掲載いたします。

☎ 企画経営課 企画財政係 ☎ (42) 2112



第6次矢吹町まちづくり総合計画策定に向け、将来の矢吹町を担う子どもたちの意見を反映させるために、子どもワークショップを開催しました。8月20日(水)・21日(木)の2日間、小学校5・6年生12名が参加し、東京農業大学の長島孝行教授とそのゼミ生の協力のもと、未来の矢吹町について考えました。

## ワークショップ1日目

東京農業大学厚木キャンパスを見学し、農業の最先端技術を学びました。今まで知らなかった農業のすごさや、「さわやかな田園のまち・やぶきとは？」を考えました。



## ワークショップ2日目

やぶき復興まちづくりセンターにて、「矢吹の野菜をPRしよう」「町長になって町を作ろう」「あなたは30年後矢吹町に住んでいますか？」の3つの課題をグループワークや討論を行い考えました。冒頭には、長島教授より「自慢できる町にしてください」との話があり、みんなでどんな矢吹町になったらいいかを一生懸命考えました。

## 子どもワークショップを通して



長島孝行教授

長島教授は、子どもたちの描いた矢吹未来予想図を見て、「今ある自然の風景、農業の風景は必須であり、そこにシンボリックな大きな建物が1つあるだけで十分だという意識が子どもたちにある」と話しました。子どもたちのアイデアや想いは、第6次矢吹町まちづくり総合計画に反映させ、よりよいまちづくりに努めていきます。

最後に、小学生の言った「私たちの町なんだから、私たちが作らなきゃ！」という言葉には、私たち大人もさらに頑張らなければと思わせるような力強さがありました。

